

2019年9月11日

民族共生象徴空間「ウポポイ」開設に向けた JR北海道の取り組みについて

JR北海道では、2020年4月24日の民族共生象徴空間「ウポポイ」の開設に向け、最寄りとなる白老駅のバリアフリー化工事を行っておりますが、検討を進めていた「スーパー北斗」の一部白老駅停車拡大及び臨時改札口の設置を行い、来場されるお客様の交通アクセスの充実を図ることといたしました。

また、車内放送にアイヌ語の挨拶や最寄り駅案内を取り入れ、北海道のおもてなしを表現することで、「ウポポイ」の開設を盛り上げる取り組みを行います。

1. 特急列車の白老駅停車本数を大幅に増やします

○現在、白老駅に停車している特急「すずらん」12本に加えて、特急「スーパー北斗」を19本停車させることにより、合計31本の特急列車をご利用いただけるようになります。

2. アイヌ語による車内放送を実施します

(1) アイヌ語での挨拶

○一部の特急列車や快速「エアポート」の札幌駅や新千歳空港駅発車時に、アイヌ語「イランカラプテ」（「こんにちは」の意）で挨拶します。

※放送文（案）

イランカラプテ。今日も、JR北海道をご利用下さいまして、ありがとうございます。
（以下、列車に関するご案内等）

(2) 最寄り駅の案内

○特急列車の白老駅到着前に、民族共生象徴空間「ウポポイ」の最寄り駅であることを、日本語に加えてアイヌ語でも案内します。

※放送文（案）

民族共生象徴空間、ウポポイへおいでのお客様は白老でお降り下さい。（アイヌ語）
ただいまの放送は、アイヌ語で「民族共生象徴空間、ウポポイへおいでのお客様は白老でお降り下さい」と、ご案内いたしました。（日本語）

3. 白老駅を改修します

(1) ホームの延伸

○特急「スーパー北斗」(最大10両編成)の停車に対応させるためホームを延伸します。

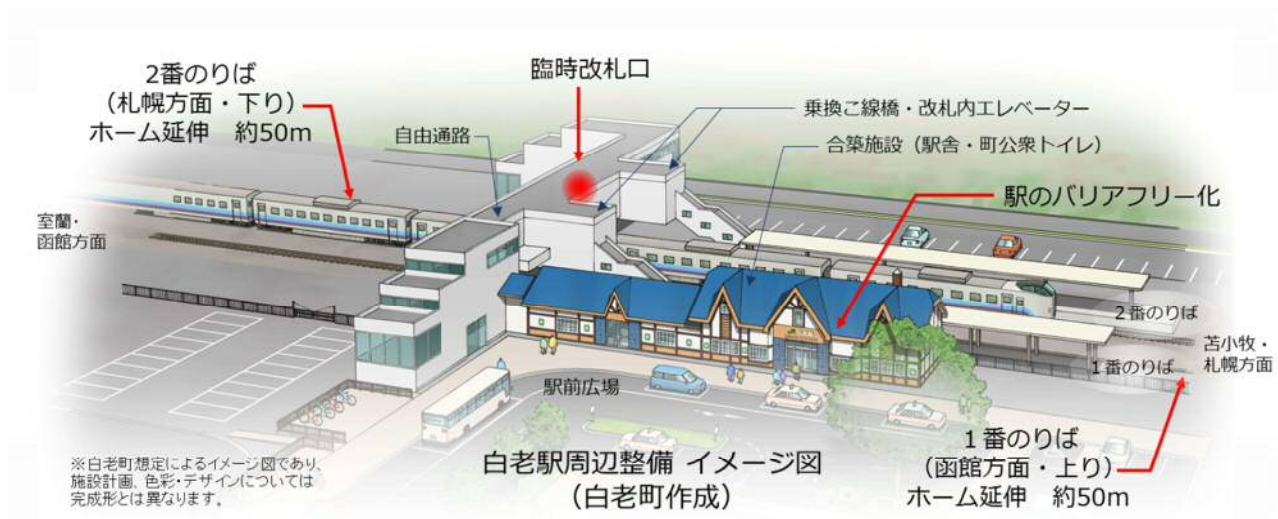
(2) 臨時改札口の設置

○乗換こ線橋と自由通路とを直接往来できる臨時改札口を設置し、駅北側の「ウポポイ」とのアクセスを向上させます。

(3) 駅のバリアフリー化

○鉄道利用者の移動の円滑化と利便性の向上を図るため以下の整備を行っています。

- ・乗換こ線橋・階段新設
- ・改札内エレベーター新設(2基、スルー型11人乗)
- ・上りホーム高さ改良(約20cm嵩上げ)
- ・駅舎内改修(自動ドア新設、LED列車発車標新設等) など



4. 実施時期

○2020年春(予定)

※具体的なダイヤ等、詳細が決まりましたら、改めてお知らせします。